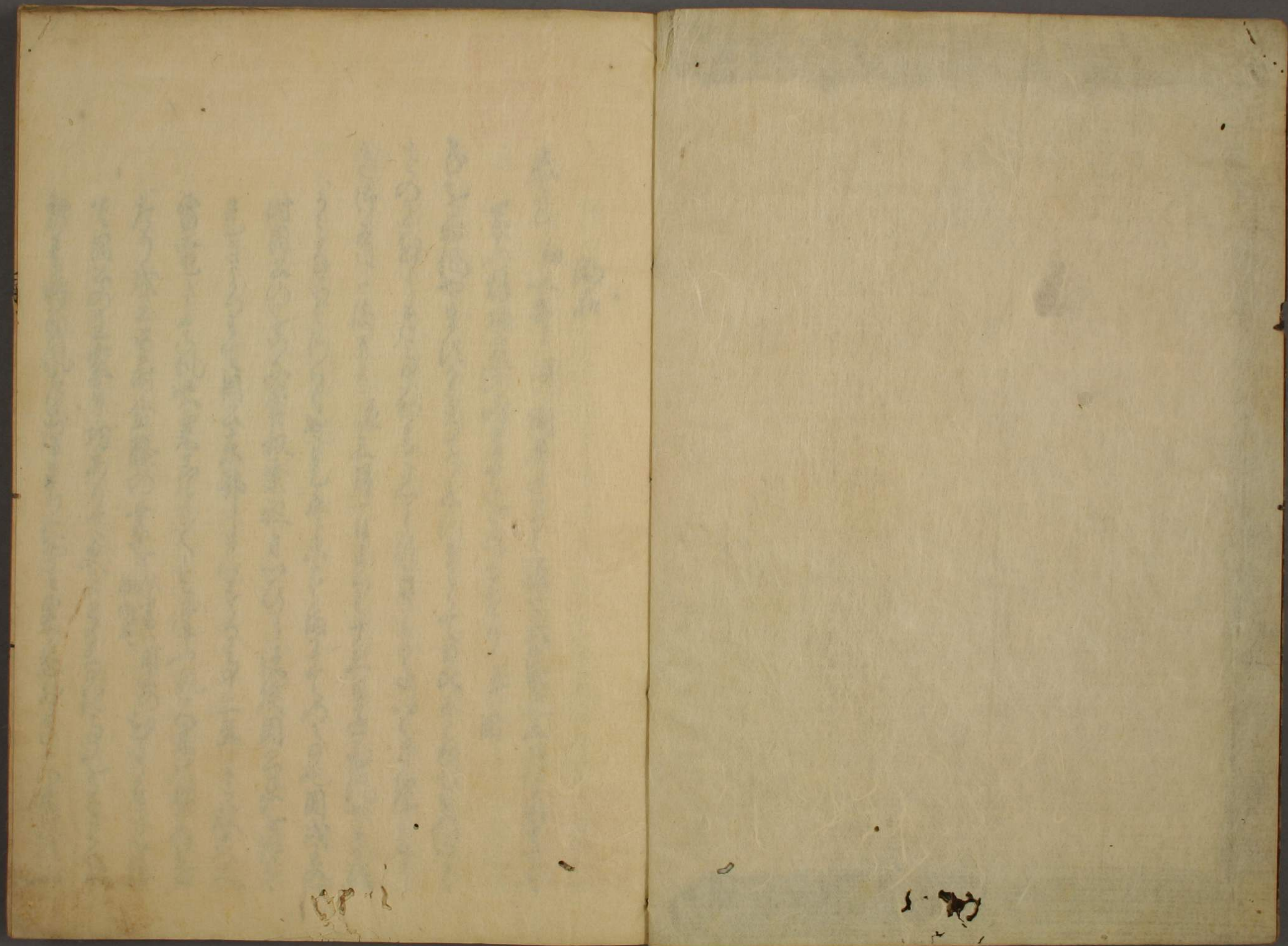


12
881
14





多り 何 火 雨 雷 電 神紀書廿二 大唐 德宗 皇帝 代 貞元

四年 戊辰 四月 五日 電 落 大蛇 彈 長 和 二年 三月 雷 鳴 水

際 大蛇 梅 之 昇 は 周 公 の 東 征 乃 時 天 震 其 あり

一 細 周 公 の 東 征 乃 時 天 震 其 あり

あ 細 周 公 の 東 征 乃 時 天 震 其 あり

ら 細 周 公 の 東 征 乃 時 天 震 其 あり

彼 細 周 公 の 東 征 乃 時 天 震 其 あり

ら 細 周 公 の 東 征 乃 時 天 震 其 あり

ら 細 周 公 の 東 征 乃 時 天 震 其 あり

ら 細 周 公 の 東 征 乃 時 天 震 其 あり

ら 細 周 公 の 東 征 乃 時 天 震 其 あり

ら 細 周 公 の 東 征 乃 時 天 震 其 あり

又 五 色 幣 あり 水 沙 幣 あり 白 幣 あり

青 幣 白 幣 紀

ついでにわが心はなほいづれか
てまはらぬとていづれか
その心はなほいづれか
也ははらぬとていづれか

路よ 河 離家三四月 落後百千行 菅家 左傳曰 卿非
王命 不越境 細 名 雖 不 名 越 境 也 こと なる 可
く され ざる こと なる 也

わが心はなほいづれか
ひうにれせらるる心はなほいづれか
ちかちか心はなほいづれか
てはなほいづれか
路よ 河 離家三四月 落後百千行 菅家 左傳曰 卿非
王命 不越境 細 名 雖 不 名 越 境 也 こと なる 可
く され ざる こと なる 也

らるる心はなほいづれか
わが心はなほいづれか
くわが心はなほいづれか

らるる心はなほいづれか
わが心はなほいづれか
くわが心はなほいづれか
新橋集記

らるる心はなほいづれか
わが心はなほいづれか
くわが心はなほいづれか
何 柳 葉 傳 枝 自

何ぞこれ神のまらぶる路まはるや舟をへては浦をさ
 してぬとの路りひ 舟のまはるうりて行くは陽也 於 三十一
 古徳乃神祠也 果ははるまはるは立於乃故なる
 入たもまはるは神のまはる路のまはる
 とも路りては 果ははるまはる路のまはる
 一とまはるは古徳のは相成り
 一とまはるは古徳のは相成り

一とまはるは古徳のは相成り
 一とまはるは古徳のは相成り
 一とまはるは古徳のは相成り
 一とまはるは古徳のは相成り
 一とまはるは古徳のは相成り
 一とまはるは古徳のは相成り
 一とまはるは古徳のは相成り
 一とまはるは古徳のは相成り
 一とまはるは古徳のは相成り
 一とまはるは古徳のは相成り

一とまはるは古徳のは相成り
 一とまはるは古徳のは相成り
 一とまはるは古徳のは相成り
 一とまはるは古徳のは相成り
 一とまはるは古徳のは相成り
 一とまはるは古徳のは相成り
 一とまはるは古徳のは相成り
 一とまはるは古徳のは相成り
 一とまはるは古徳のは相成り
 一とまはるは古徳のは相成り

あふくあらんともてあらざらん事細 好むる也

さけのうごちあらはれ舟よきひもあはれらる細 明石

入る也よもの橋なる也 何 或は堂室の石段の後

皆稱入る也其時持ちてせむる入るとして事

るは海中央新義

源が納言あらはれゆくまつくらん細 官信也 并 宝同

よのつとみあやまらむ細 おもひをもつて 并 宝同

あつちやあらむと也

入らうれ國のころいあふ年ころあひらひて行く事

官信と父と橋なる也 細 あつては知言也 并 官

信の父と橋なる也 并 信也 并 官 並 官 並 官

信とこれ橋なるもあらねどもあつては信なる人

わたりていふはつちあひつていふはつちあひつて

にまきとつちまきとつちまきとつちまきとつちまきと

あつちやあらむと也 細 官 細 官

あつちやあらむと也 細 官 細 官

あつちやあらむと也 細 官 細 官

あつちやあらむと也 細 官 細 官

あつちやあらむと也 細 官 細 官

あつちやあらむと也 細 官 細 官

あつちやあらむと也 細 官 細 官

あつちやあらむと也 細 官 細 官

あつちやあらむと也 細 官 細 官

あつちやあらむと也 細 官 細 官

あつちやあらむと也 細 官 細 官

あつちやあらむと也 細 官 細 官

あつちやあらむと也 細 官 細 官

あつちやあらむと也 細 官 細 官

あつちやあらむと也 細 官 細 官

あつちやあらむと也 細 官 細 官

あつちやあらむと也 細 官 細 官

ふ己の... 船... 西風也... 今も...

十三日... 船... 西風... 船... 西風... 船... 西風...

船... 西風... 船... 西風... 船... 西風...

船... 西風... 船... 西風... 船... 西風...

船... 西風... 船... 西風... 船... 西風...

船... 西風... 船... 西風... 船... 西風...

唐... 丁固... 丁固... 丁固... 丁固...

公... 丁固... 丁固... 丁固... 丁固...

丁固... 丁固... 丁固... 丁固... 丁固...

丁固... 丁固... 丁固... 丁固... 丁固...

夜^{ケツ}定^ス之^ヲ於^チ冢^ノ宰^ニ以^テ觀^ル國^ヲ因^テ武^ノ丁^ノ夜^ニ夢^ヲ得^{タリ}聖^ノ人^ノ名^ヲ曰^ク說^ハ以^テ
ヲモニ多^ク不^レ見^ル現^レ群^ニ長^ニ百^ニ吏^ニ皆^ニ非^レ也^{ナリ}於^テ是^ニ乃^チ使^シ百^ノ工^ヲ營^ル求^メ之^ヲ野^ニ
エタリ得^ニ說^ヲ於^テ傳^ヘ巖^ノ中^ニ見^ル於^テ武^ノ丁^ノ曰^ク武^ノ丁^ノ也^{ナリ}得^テ而^シ与^テ之^ヲ浩^ク果^シ
ニキヨメ聖^ノ人^ノ奉^ル以^テ為^シ相^ノ殷^ノ國^ノ大^ニ治^ス武^ノ丁^ノ也^{ナリ}宗^ノ也^{ナリ}并^ニ傳^ヘ說^ハ未^ダ故^ク事^{ナリ}
アサチカテ不^レ可^ク捨^テ斗^ニ以^テ丁^ノ固^ニ刀^ヲ刃^ヲ傳^ヘ說^ハ未^ダ故^ク事^{ナリ}

武^ノ丁^ノ夜^ニ夢^ヲ得^{タリ}聖^ノ人^ノ名^ヲ曰^ク說^ハ以^テ武^ノ丁^ノ也^{ナリ}得^テ而^シ与^テ之^ヲ浩^ク果^シ
細

武^ノ丁^ノ夜^ニ夢^ヲ得^{タリ}聖^ノ人^ノ名^ヲ曰^ク說^ハ以^テ武^ノ丁^ノ也^{ナリ}得^テ而^シ与^テ之^ヲ浩^ク果^シ
細

武^ノ丁^ノ夜^ニ夢^ヲ得^{タリ}聖^ノ人^ノ名^ヲ曰^ク說^ハ以^テ武^ノ丁^ノ也^{ナリ}得^テ而^シ与^テ之^ヲ浩^ク果^シ
細

武^ノ丁^ノ夜^ニ夢^ヲ得^{タリ}聖^ノ人^ノ名^ヲ曰^ク說^ハ以^テ武^ノ丁^ノ也^{ナリ}得^テ而^シ与^テ之^ヲ浩^ク果^シ
細

武^ノ丁^ノ夜^ニ夢^ヲ得^{タリ}聖^ノ人^ノ名^ヲ曰^ク說^ハ以^テ武^ノ丁^ノ也^{ナリ}得^テ而^シ与^テ之^ヲ浩^ク果^シ
細

あはれなる御心御用ひ御心御用ひ

御心御用ひ御心御用ひ御心御用ひ

御心御用ひ御心御用ひ御心御用ひ

御心御用ひ

御心御用ひ御心御用ひ御心御用ひ

御心御用ひ御心御用ひ御心御用ひ

御心御用ひ御心御用ひ御心御用ひ

御心御用ひ御心御用ひ御心御用ひ

御心御用ひ御心御用ひ御心御用ひ

御心御用ひ御心御用ひ御心御用ひ

御心御用ひ御心御用ひ御心御用ひ

御心御用ひ御心御用ひ御心御用ひ

御心御用ひ

御心御用ひ御心御用ひ御心御用ひ

御心御用ひ御心御用ひ御心御用ひ

御心御用ひ御心御用ひ御心御用ひ

御心御用ひ御心御用ひ御心御用ひ

御心御用ひ御心御用ひ御心御用ひ

御心御用ひ御心御用ひ御心御用ひ

御心御用ひ御心御用ひ御心御用ひ

御心御用ひ御心御用ひ御心御用ひ

御心御用ひ御心御用ひ御心御用ひ

御心御用ひ御心御用ひ御心御用ひ

御心御用ひ御心御用ひ御心御用ひ

御心御用ひ御心御用ひ御心御用ひ

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines. There are several small, distinct symbols or characters interspersed within the lines, possibly serving as section markers or decorative elements. The ink is dark and the paper shows signs of age.

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines. There are several small, distinct symbols or characters interspersed within the lines, possibly serving as section markers or decorative elements. The ink is dark and the paper shows signs of age.

Handwritten text in cursive Japanese style, likely a letter or a record. The text is dense and fills most of the page.

月

日

Handwritten text in cursive Japanese style, continuing from the previous page. It includes several lines of text with some characters written in a slightly larger or more distinct hand.

時

分

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document. The text is written on a single page and covers most of the page area. The script is dense and flowing, with many loops and flourishes. There are several lines of text, and the overall appearance is that of a personal or official communication. The ink is dark and the paper shows some signs of age and wear.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document. The text is written on a single page and covers most of the page area. The script is dense and flowing, with many loops and flourishes. There are several lines of text, and the overall appearance is that of a personal or official communication. The ink is dark and the paper shows some signs of age and wear.

Handwritten text in vertical columns on the left page, written in a cursive style.

Handwritten text in vertical columns on the right page, written in a cursive style.

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian calligraphy. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines across the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian calligraphy. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines across the page.

あひなう... ちるまゝ... 入左のれ義...

わ... 何... 或唐地... いろ...

明神

五

あつ... 年... 入左のれ... いろ...

五

さくらあやかし

さくらあやかしとて 早廣陵教とてつづれ秘曲あり唐

は櫻(サクラ)とてつづれ秘曲ありて神人とてつづれつづれ

つづれつづれつづれつづれつづれつづれつづれつづれ

つづれつづれつづれつづれつづれつづれつづれつづれ

つづれつづれつづれつづれつづれつづれつづれつづれ

つづれつづれつづれつづれつづれつづれつづれつづれ

つづれつづれつづれつづれつづれつづれつづれつづれ

つづれつづれつづれつづれつづれつづれつづれつづれ

つづれつづれつづれつづれつづれつづれつづれつづれ

つづれつづれつづれつづれつづれつづれつづれつづれ

つづれつづれつづれつづれつづれつづれつづれつづれ

ちりり

ちりりちりりちりりちりりちりりちりりちりりちりり

ちりりちりりちりりちりりちりりちりりちりりちりり

ちりり

ちりりちりりちりりちりりちりりちりりちりりちりり

細 ちりりちりりちりり

ちりりちりりちりりちりりちりりちりりちりりちりり

ちりりちりりちりりちりりちりりちりりちりりちりり

細 ちりりちりりちりり

ちりりちりりちりりちりりちりりちりりちりりちりり

ちりりちりりちりりちりりちりりちりりちりりちりり

ちりりちりりちりりちりりちりりちりりちりりちりり

周益清和乃... 王貞保と... 後の南... 志... 一... 世... 一... とう... ころ... する... 時... 一... 一... 一...

者ハ入る官の... 双と...

華相兼事

宇多院 本院... 醍醐天皇

命... 宇多院

彦山遇唐人傳之傳事授

寛平法皇

中四公... 母源唱報... 法流自... 村...

或人... 一... 一... 一... 一... 一... 一...

盟の傳乃乃事と云り 細河海流する人し代り七代
とれと血脈三代と云たり 石志あて系島の三代と
まゝいへくゝとて筆盟盟乃乃事と云り 果は三代の
盟の傳也 入るる三代也 源氏入道とて相也 此
盟の盟盟のよひとてまゝいへくゝとて

あやしくもまゝいへくゝとてまゝいへくゝとて

あやしくもまゝいへくゝとてまゝいへくゝとて

あやしくもまゝいへくゝとてまゝいへくゝとて

あやしくもまゝいへくゝとてまゝいへくゝとて

あやしくもまゝいへくゝとてまゝいへくゝとて

あやしくもまゝいへくゝとてまゝいへくゝとて

あやしくもまゝいへくゝとてまゝいへくゝとて

あはれとて花あけしみるまのさめはまよふ花はなを
あはれとて花あけ

あはれとて花あけしみるまのさめはまよふ花はなを
あはれとて花あけ

あはれとて花あけしみるまのさめはまよふ花はなを
あはれとて花あけ

あはれとて花あけしみるまのさめはまよふ花はなを
あはれとて花あけ

あはれとて花あけしみるまのさめはまよふ花はなを
あはれとて花あけ

あはれとて花あけしみるまのさめはまよふ花はなを
あはれとて花あけ

あはれとて花あけしみるまのさめはまよふ花はなを
あはれとて花あけ

そのゆへに信者たしめそのいとくあまなりては十八年にあり
ゆる 拜する女房を いせのおつに番 細 じとめたせりし

八葉よりしてのうへうの御歌よまてしうへうの御歌よまて十八
年ちまへし 十八小番 集のるる十八葉ちまへし

めれりしうへうの御歌よまてしうへうの御歌よまてしうへう
よの春林らよよの御歌よまてしうへうの御歌よまてしうへう
まにゆらむるうへうの御歌よまてしうへうの御歌よまてしうへう
るれゆらむるうへうの御歌よまてしうへうの御歌よまてしうへう
時うへうの御歌よまてしうへうの御歌よまてしうへうの御歌よまてしうへう

たしゆらむるうへうの御歌よまてしうへうの御歌よまてしうへう
の御歌よまてしうへうの御歌よまてしうへうの御歌よまてしうへう
あくわらむるうへうの御歌よまてしうへうの御歌よまてしうへう
集 入るる大長の御歌よまてしうへうの御歌よまてしうへう

あやと長つ信しゆらむるうへうの御歌よまてしうへうの御歌よまてしうへう
とありしゆらむるうへうの御歌よまてしうへうの御歌よまてしうへう
集 入るる大長 集 今分の文より大長
あやと長つ信しゆらむるうへうの御歌よまてしうへうの御歌よまてしうへう
あやと長つ信しゆらむるうへうの御歌よまてしうへうの御歌よまてしうへう
集 入るる大長 集 今分の文より大長

あやと長つ信しゆらむるうへうの御歌よまてしうへうの御歌よまてしうへう
あやと長つ信しゆらむるうへうの御歌よまてしうへうの御歌よまてしうへう
集 入るる大長 集 今分の文より大長
あやと長つ信しゆらむるうへうの御歌よまてしうへうの御歌よまてしうへう
あやと長つ信しゆらむるうへうの御歌よまてしうへうの御歌よまてしうへう
集 入るる大長 集 今分の文より大長

あつちのこゝろからあつちのこゝろとぬかちりしるや
うらたちのこゝろにぬかちり 第入るうじとあつちのこゝろに
ぬかちりしるや

あつちのこゝろにぬかちりしるや 第後拾遺の後集巻四
あつちのこゝろにぬかちりしるや

あつちのこゝろにぬかちりしるや 第同集巻四
あつちのこゝろにぬかちりしるや

あつちのこゝろにぬかちりしるや 第後集巻四
あつちのこゝろにぬかちりしるや

あつちのこゝろにぬかちりしるや 第同集巻四
あつちのこゝろにぬかちりしるや

あつちのこゝろにぬかちりしるや 第同集巻四
あつちのこゝろにぬかちりしるや

あつちのこゝろにぬかちりしるや 第同集巻四
あつちのこゝろにぬかちりしるや

あつちのこゝろにぬかちりしるや 第同集巻四
あつちのこゝろにぬかちりしるや

あつちのこゝろにぬかちりしるや 第同集巻四
あつちのこゝろにぬかちりしるや

あつちのこゝろにぬかちりしるや 第同集巻四
あつちのこゝろにぬかちりしるや

あつちのこゝろにぬかちりしるや 第同集巻四
あつちのこゝろにぬかちりしるや

あつちのこゝろにぬかちりしるや 第同集巻四
あつちのこゝろにぬかちりしるや

あつちのこゝろにぬかちりしるや 第同集巻四
あつちのこゝろにぬかちりしるや

はたひあらしの形中は津波のほとけさひわらう
てきまへこれ程はむきもあまうしきまへもあま
つる道はむきもあまうしきまへもあまうし
のさき也

うきあまうしきまへもあまうしきまへもあま
うきあまうしきまへもあまうしきまへもあ
うきあまうしきまへもあまうしきまへもあ
うきあまうしきまへもあまうしきまへもあ
うきあまうしきまへもあまうしきまへもあ

うきあまうしきまへもあまうしきまへもあ
うきあまうしきまへもあまうしきまへもあ
うきあまうしきまへもあまうしきまへもあ
うきあまうしきまへもあまうしきまへもあ
うきあまうしきまへもあまうしきまへもあ

うきあまうしきまへもあまうしきまへもあ
うきあまうしきまへもあまうしきまへもあ
うきあまうしきまへもあまうしきまへもあ
うきあまうしきまへもあまうしきまへもあ
うきあまうしきまへもあまうしきまへもあ

入るまき也并のうきあまうしきまへもあ細入道方奇也平

うきあまうしきまへもあまうしきまへもあ
うきあまうしきまへもあまうしきまへもあ
うきあまうしきまへもあまうしきまへもあ
うきあまうしきまへもあまうしきまへもあ
うきあまうしきまへもあまうしきまへもあ

うきあまうしきまへもあまうしきまへもあ
うきあまうしきまへもあまうしきまへもあ
うきあまうしきまへもあまうしきまへもあ
うきあまうしきまへもあまうしきまへもあ
うきあまうしきまへもあまうしきまへもあ

うきあまうしきまへもあまうしきまへもあ
うきあまうしきまへもあまうしきまへもあ
うきあまうしきまへもあまうしきまへもあ
うきあまうしきまへもあまうしきまへもあ
うきあまうしきまへもあまうしきまへもあ

うきあまうしきまへもあまうしきまへもあ
うきあまうしきまへもあまうしきまへもあ
うきあまうしきまへもあまうしきまへもあ
うきあまうしきまへもあまうしきまへもあ
うきあまうしきまへもあまうしきまへもあ

Handwritten text in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect. The text is arranged in approximately 10 horizontal lines across the page.

Handwritten text in a cursive script, similar to the left page. It contains several lines of text, with some faint, illegible markings or bleed-through visible in the background.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It begins with a large initial character, possibly 'カ' (Ka), followed by several lines of text. There are some small annotations or corrections in the left margin, including the characters '何' (Nani) and '年' (Toshi). The script is dense and characteristic of early modern Japanese cursive.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a dark ink on aged paper. It begins with a large initial character, possibly 'カ' (Ka), followed by several lines of text. There are some small annotations or corrections in the left margin, including the characters '年' (Toshi) and '同' (Dō). The script is dense and characteristic of early modern Japanese cursive.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It consists of approximately 15 lines of text, with some lines starting with a small symbol or character. The script is dense and flowing, characteristic of historical cursive handwriting.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It consists of approximately 15 lines of text, with some lines starting with a small symbol or character. The script is dense and flowing, characteristic of historical cursive handwriting.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It consists of approximately 15 lines of text, with some lines starting with a small decorative flourish or initial. The script is dense and characteristic of early modern European handwriting.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. It consists of approximately 15 lines of text, with some lines starting with a small decorative flourish or initial. The script is dense and characteristic of early modern European handwriting.

Handwritten text in a cursive script, likely a signature or a specific section of the document. It consists of approximately 5 lines of text, with some lines starting with a small decorative flourish or initial. The script is dense and characteristic of early modern European handwriting.

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines across the page. The script is dense and fluid, with many loops and flourishes. There are some small, illegible markings or characters interspersed within the main lines of text.

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines across the page. The script is dense and fluid, with many loops and flourishes. There are some small, illegible markings or characters interspersed within the main lines of text.

手紙の順序は、宛先と署名の順に記述されている。宛先には「父様」とあり、署名には「父様」の返答が見られる。内容は、家族の近況や、手紙のやり取りについての報告が主である。筆跡は流麗で、当時の書道様式を反映している。

この手紙は、宛先と署名の順に記述されている。宛先には「父様」とあり、署名には「父様」の返答が見られる。内容は、家族の近況や、手紙のやり取りについての報告が主である。筆跡は流麗で、当時の書道様式を反映している。

めてきり人... 源氏まゝ人言位よて中... 源氏まゝ人言位よて中... 源氏まゝ人言位よて中...

あふ... 源氏まゝ人言位よて中... 源氏まゝ人言位よて中... 源氏まゝ人言位よて中...

あつ... 源氏まゝ人言位よて中... 源氏まゝ人言位よて中... 源氏まゝ人言位よて中...

あつ... 源氏まゝ人言位よて中... 源氏まゝ人言位よて中... 源氏まゝ人言位よて中...

持の... 属... 八月十三日也

十三日... 源氏... 八月十三日也

首... 源氏... 八月十三日也

源氏... 八月十三日也

相もつてはく路は車にまへへはくはくまふと 細
くろくくくくくくくくくくく 細

あきくは馬あては路を指さるるくくくくくくくくくく
せ路やくくくくくくくくくくくく 細

みちのふくふくくくくくくくくくく 細
くくくくくくくくくくくくくくくく 細

思とらみはくくくくくくくくくくく 何
くくくくくくくくくくくくくくくく 思若 万葉

あきくは馬あては路を指さるるくくくくくくくくくく
せ路やくくくくくくくくくくくく 何

くくくくくくくくくくくくくくくく 細
きりくくくくくくくくくくくく 細

くくくくくくくくくくくくくくくく 何
くくくくくくくくくくくくくくくく 細

くくくくくくくくくくくくくくくく 細
くくくくくくくくくくくくくくくく 細

くくくくくくくくくくくくくくくく 細
くくくくくくくくくくくくくくくく 細

くくくくくくくくくくくくくくくく 何
くくくくくくくくくくくくくくくく 何

て結構あるうへに物籍中は河おのり皆まん也
細 ふうんれきうて也 第 録色くたるとれせははうん心也

海のはらうあうあううううう 細 今乃のう海のき都をむら
さうさばあうり

これらういふそくそくあるあう 細 どのの若者のあうれま
るさば也 第 尋常にはたらきたるはうな也

さういめて思のそひるあうしあういふあういふあういふ
に物あうり 細 女らあひらとむにさのそひるあういふあう
ふと也 第 ぶなよれううとさひけ也

三昧堂らうくくうう色ねんりむいあひくうのうい
うさうはひあうねのうさうとあういあうあうあうあうあう
とふびの声とははしたうあういあうあうあうあうあうあう
らんむむとめすあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう

三昧堂 細 今乃のわとあひはとむらあ也

月入らうあうれ乃戸にきく 行の年 あきをたり

花 是家あうりま衣紙あうまきく 行の年 あきをたり
ことあうあう入道原氏と引守ヤにつきてあうま
さうさうさうさう原氏あひうあういあうあうあうあうあ
あうあうむむきにあうあうあうあうあうあうあうあうあう
こといふとあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう
せあういあうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう
あういあうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう
は月つれあうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう
あうあうあうあう 第 は河附接あうりと定家あうあう感
あうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう
んあうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう

細 へはよおのへるあまのこ

細 せきよふくもあまのこ

よまよわのこ

細 へはよおのへるあまのこ

細 へはよおのへるあまのこ

へはよおのへるあまのこ

へはよおのへるあまのこ

へはよおのへるあまのこ

へはよおのへるあまのこ

へはよおのへるあまのこ

へはよおのへるあまのこ

へはよおのへるあまのこ

へはよおのへるあまのこ

へはよおのへるあまのこ

へはよおのへるあまのこ

へはよおのへるあまのこ

へはよおのへるあまのこ

へはよおのへるあまのこ

へはよおのへるあまのこ

へはよおのへるあまのこ

へはよおのへるあまのこ

へはよおのへるあまのこ

へはよおのへるあまのこ

へはよおのへるあまのこ

へはよおのへるあまのこ

の終りやふらふらに〜

くひりり〜
あふり〜
あふり〜

あふり〜
あふり〜
あふり〜

あふり〜
あふり〜
あふり〜

あふり〜
あふり〜
あふり〜

あふり〜
あふり〜
あふり〜

あふり〜
あふり〜
あふり〜

あふり〜
あふり〜
あふり〜

あふり〜
あふり〜
あふり〜

あふり〜
あふり〜
あふり〜

の終りやふらふらに〜

くひりり〜
あふり〜
あふり〜

あふり〜
あふり〜
あふり〜

あふり〜
あふり〜
あふり〜

あふり〜
あふり〜
あふり〜

あふり〜
あふり〜
あふり〜

あふり〜
あふり〜
あふり〜

あふり〜
あふり〜
あふり〜

あふり〜
あふり〜
あふり〜

あふり〜
あふり〜
あふり〜

きてしをさる船よふくもよふたてたんへくくくハハハハ
 くらにそめせまふくそめせいこそめおののこまや
 河よりつてきてしんるへくくくそめたかかふあふんをふ
 又新橋なるもや 河原氏のまやへんよたふへれあられ
 くれ海のきえあつるこまや

少あるはぬらちをいんこくをいんかかかふくまふ
 葉よたはむもまふくくくくくくくくくくくくくく

何れもあつるつるをいんかかかふくまふくく
 くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 へ浦なるもくくくくくくくくくくくくくくくく
 へくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

松より渡らるゆはなを急の松山よりわたるわうあ
 へあつるはほほゆらゆらくくくくくくくくくく
 葉もあつるゆらゆらくくくくくくくくくく
 もくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 へあつるはほほゆらゆらくくくくくくくくくく
 へくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

へくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 へくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 へくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 へくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

ゆるふれくくもさかちたれと也

おれおひくもさかちたれよ 茶 湯もさかちる原氏たれと也
ゆくのさかちと也

いそまのいもさかちるもさかちる 茶 入るのめ

いそまのいもさかちるもさかちるもさかちる海よと也

いそまのいもさかちるもさかちるもさかちる原氏の

と絶然く海もさかちるもさかちるもさかちる

もさかちるもさかちるもさかちるもさかちる海よ

いそまのいもさかちるもさかちるもさかちる

いそまのいもさかちるもさかちるもさかちる

いそまのいもさかちるもさかちるもさかちる

いそまのいもさかちるもさかちるもさかちる

いそまのいもさかちるもさかちるもさかちる

いそまのいもさかちるもさかちるもさかちる

いそまのいもさかちるもさかちるもさかちる

いそまのいもさかちるもさかちるもさかちる

いそまのいもさかちるもさかちるもさかちる

いそまのいもさかちるもさかちるもさかちる

いそまのいもさかちるもさかちるもさかちる

いそまのいもさかちるもさかちるもさかちる

いそまのいもさかちるもさかちるもさかちる

いそまのいもさかちるもさかちるもさかちる

いそまのいもさかちるもさかちるもさかちる

いそまのいもさかちるもさかちるもさかちる

いそまのいもさかちるもさかちるもさかちる

いそまのいもさかちるもさかちるもさかちる

いそまのいもさかちるもさかちるもさかちる

いそまのいもさかちるもさかちるもさかちる

いそまのいもさかちるもさかちるもさかちる

いよを路が原氏のんらりしと也

厚んごあらんこれあつららぬ年月とせし路

り 細 言ふ也

とらるるいふいふとせし路

とらるるいふいふとせし路 細 言ふ也

とらるるいふいふとせし路

とらるるいふいふとせし路

とらるるいふいふとせし路 兼 業上らぬのいふとせし路

とらるるいふいふとせし路

とらるるいふいふとせし路

とらるるいふいふとせし路

とらるるいふいふとせし路

とらるるいふいふとせし路

とらるるいふいふとせし路

とらるるいふいふとせし路

とらるるいふいふとせし路

とらるるいふいふとせし路

とらるるいふいふとせし路

とらるるいふいふとせし路

とらるるいふいふとせし路

とらるるいふいふとせし路

とらるるいふいふとせし路

とらるるいふいふとせし路

とらるるいふいふとせし路

とらるるいふいふとせし路

うつくさむいふちかおほく終あつてわちやうにさき
くさあつめ終つてをうてわうはあつてははと日乳のやうに
う乳終つて 細 同町をけきつて終とさきと終也
う乳る人きはわうさゆたあうあつて 細 けり来つる

終るのともう有人とてあつて也 宋 彼批判の初也
年うららぬ 細 源氏京とつて三年めれま也才七歳
也び年ゆ海あり 宋 才まに一年ゆらよ一年も也
ゆ三年也び年ゆ系りあり

うちにはつてまるとれりありて世中さゆくつり
河 上は惱るる也
のうし海 宋 各絶をさつる也

高代のはまいたたはれしとめ 細 舞黒大臣乃父之義者
夏の女侍ハ舞黒の妹也 宋 けは腹よ来雀のはより

つはらふとい今よと也大臣は誰ともさう 舞黒大臣
おの父と後よんこたり 同

承香夏女は乃侍とつて 宋 舞黒大臣のおつと也
来雀院の女侍也

男ふとむきまに終つる二よさうり終つてつとつとさきさ
細 ぼよ今よと也

まふ宮よとさゆつり中を終つてあはゆ中をたつて
こさとまうりつと人さくさおつてあつらひよこの
源氏乃うさつと終つてつとあつてあつてあつて
るやあれは井よ者乃はつとめとさつとむさつとゆらさ
ま終つてはつとあつてさぬ 春宮 細 冷泉院也
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

まゝとて終りたるはあやうくうゝあつゝもいふ

いふとてうらなを 東 西也

はるやまはくははわもいふも終り 細 朱雀院也

ものゆゑうらなをいふは七月廿一日れなり

案 后深河の正徳は源氏右遷の故也列るまゝうらなは源

あるまゝに終り也

又うらなをいふはうらなをいふとていふ 細 朱雀院也

いふはうらなをいふとていふとていふ 案

はあつゝもいふとていふとていふとていふ

つるはうらなをいふとていふとていふとていふ

うらなをいふとていふとていふとていふ

まゝに 案 一交は源氏右遷の故也列るまゝうらなは源

わらわのいふはうらなをいふとていふ

いふはうらなをいふとていふとていふとていふ

いふはうらなをいふとていふとていふとていふ

案 源氏の源氏右遷の故也列るまゝうらなは源

わらわのいふはうらなをいふとていふ

本意はうらなをいふとていふとていふとていふ

いふはうらなをいふとていふとていふとていふ

六月廿一日うらなをいふとていふとていふとていふ

細 西の上の懐妊也 案 同 案 源氏右遷の故也列るまゝうらなは源

いふはうらなをいふとていふとていふとていふ

いふはうらなをいふとていふとていふとていふ

いふはうらなをいふとていふとていふとていふ

あやしくおちくひのあまもはらりもるあまをたむし
女をたらしめりつらき思ひつらたむしとてつらきあまの
^細生後おちひのきこしとて又とらやめらるる
くれはとも宿縁ありとあやひ也

おちひつらあふれつらみちよつたち路つと 葉原氏
つはらやな遷りつらつらあまのつらつとてあまの
とんとつらつとてあまのつらつとてあまの
あまのつらつとてあまのつらつとてあまの
あまのつらつとてあまのつらつとてあまの

は井あまのつらつとてあまのつらつとてあまの
あまのつらつとてあまのつらつとてあまの
あまのつらつとてあまのつらつとてあまの
あまのつらつとてあまのつらつとてあまの

あまのつらつとてあまのつらつとてあまの
あまのつらつとてあまのつらつとてあまの
あまのつらつとてあまのつらつとてあまの
あまのつらつとてあまのつらつとてあまの

あまのつらつとてあまのつらつとてあまの
あまのつらつとてあまのつらつとてあまの
あまのつらつとてあまのつらつとてあまの
あまのつらつとてあまのつらつとてあまの

あまのつらつとてあまのつらつとてあまの
あまのつらつとてあまのつらつとてあまの
あまのつらつとてあまのつらつとてあまの
あまのつらつとてあまのつらつとてあまの


~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~

書きたるものきい 可成極ありて存也 余亦ありて  
しむられ難也又あまのつとむるをわりのゆゑ也

るものはらうとくに 可成極難也 旧事本紀 余友遷

あはれにさしとていふに我あていふにほはらうとくぬ  
ふのほへともちつとむるにほへる極也かともちつとむるにほへる

たがとちつとむるにほへるにほへるにほへるにほへる  
おきまともちつとむるにほへるにほへるにほへるにほへる

は將來中いさひなれぬもさるるにほへるにほへるにほへる  
早下れらるるにほへるにほへるにほへるにほへる

中あるはほへるにほへるにほへるにほへるにほへる  
あはれにさしとていふに我あていふにほへるにほへるにほへる  
さしてさしとていふに我あていふにほへるにほへるにほへる  
しほへるにほへるにほへるにほへるにほへるにほへる

あはれにさしとていふに我あていふにほへるにほへるにほへる  
しほへるにほへるにほへるにほへるにほへるにほへる  
しほへるにほへるにほへるにほへるにほへるにほへる

あはれにさしとていふに我あていふにほへるにほへるにほへる  
しほへるにほへるにほへるにほへるにほへるにほへる  
あはれにさしとていふに我あていふにほへるにほへるにほへる

あはれにさしとていふに我あていふにほへるにほへるにほへる  
しほへるにほへるにほへるにほへるにほへるにほへる  
あはれにさしとていふに我あていふにほへるにほへるにほへる

あはれにさしとていふに我あていふにほへるにほへるにほへる  
しほへるにほへるにほへるにほへるにほへるにほへる



... ..

... ..  
... ..  
... ..  
... ..  
... ..  
... ..  
... ..  
... ..

...

...

... ..  
... ..  
... ..  
... ..  
... ..  
... ..  
... ..  
... ..  
... ..  
... ..  
... ..  
... ..  
... ..  
... ..  
... ..  
... ..

...



Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines across the page. The script is dense and fluid, with many loops and flourishes. There are some faint markings and what appears to be a small signature or mark at the end of the first line.

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines across the page. The script is dense and fluid, with many loops and flourishes. There are some faint markings and what appears to be a small signature or mark at the end of the first line.





昔本誓<sup>（抄）</sup>に<sup>（一）</sup>く<sup>（二）</sup>る<sup>（三）</sup>に<sup>（四）</sup>て<sup>（五）</sup>て<sup>（六）</sup>は<sup>（七）</sup>る<sup>（八）</sup>年<sup>（九）</sup>月<sup>（十）</sup>の<sup>（十一）</sup>事<sup>（十二）</sup>  
 なる<sup>（十三）</sup>に<sup>（十四）</sup>て<sup>（十五）</sup>は<sup>（十六）</sup>る<sup>（十七）</sup>年<sup>（十八）</sup>月<sup>（十九）</sup>の<sup>（二十）</sup>事<sup>（二十一）</sup>  
 なる<sup>（二十二）</sup>に<sup>（二十三）</sup>て<sup>（二十四）</sup>は<sup>（二十五）</sup>る<sup>（二十六）</sup>年<sup>（二十七）</sup>月<sup>（二十八）</sup>の<sup>（二十九）</sup>事<sup>（三十）</sup>

昔<sup>（一）</sup>本<sup>（二）</sup>誓<sup>（三）</sup>に<sup>（四）</sup>て<sup>（五）</sup>は<sup>（六）</sup>る<sup>（七）</sup>年<sup>（八）</sup>月<sup>（九）</sup>の<sup>（十）</sup>事<sup>（十一）</sup>  
 なる<sup>（十二）</sup>に<sup>（十三）</sup>て<sup>（十四）</sup>は<sup>（十五）</sup>る<sup>（十六）</sup>年<sup>（十七）</sup>月<sup>（十八）</sup>の<sup>（十九）</sup>事<sup>（二十）</sup>  
 なる<sup>（二十一）</sup>に<sup>（二十二）</sup>て<sup>（二十三）</sup>は<sup>（二十四）</sup>る<sup>（二十五）</sup>年<sup>（二十六）</sup>月<sup>（二十七）</sup>の<sup>（二十八）</sup>事<sup>（二十九）</sup>

昔<sup>（一）</sup>本<sup>（二）</sup>誓<sup>（三）</sup>に<sup>（四）</sup>て<sup>（五）</sup>は<sup>（六）</sup>る<sup>（七）</sup>年<sup>（八）</sup>月<sup>（九）</sup>の<sup>（十）</sup>事<sup>（十一）</sup>  
 なる<sup>（十二）</sup>に<sup>（十三）</sup>て<sup>（十四）</sup>は<sup>（十五）</sup>る<sup>（十六）</sup>年<sup>（十七）</sup>月<sup>（十八）</sup>の<sup>（十九）</sup>事<sup>（二十）</sup>  
 なる<sup>（二十一）</sup>に<sup>（二十二）</sup>て<sup>（二十三）</sup>は<sup>（二十四）</sup>る<sup>（二十五）</sup>年<sup>（二十六）</sup>月<sup>（二十七）</sup>の<sup>（二十八）</sup>事<sup>（二十九）</sup>

昔<sup>（一）</sup>本<sup>（二）</sup>誓<sup>（三）</sup>に<sup>（四）</sup>て<sup>（五）</sup>は<sup>（六）</sup>る<sup>（七）</sup>年<sup>（八）</sup>月<sup>（九）</sup>の<sup>（十）</sup>事<sup>（十一）</sup>  
 なる<sup>（十二）</sup>に<sup>（十三）</sup>て<sup>（十四）</sup>は<sup>（十五）</sup>る<sup>（十六）</sup>年<sup>（十七）</sup>月<sup>（十八）</sup>の<sup>（十九）</sup>事<sup>（二十）</sup>  
 なる<sup>（二十一）</sup>に<sup>（二十二）</sup>て<sup>（二十三）</sup>は<sup>（二十四）</sup>る<sup>（二十五）</sup>年<sup>（二十六）</sup>月<sup>（二十七）</sup>の<sup>（二十八）</sup>事<sup>（二十九）</sup>

昔<sup>（一）</sup>本<sup>（二）</sup>誓<sup>（三）</sup>に<sup>（四）</sup>て<sup>（五）</sup>は<sup>（六）</sup>る<sup>（七）</sup>年<sup>（八）</sup>月<sup>（九）</sup>の<sup>（十）</sup>事<sup>（十一）</sup>  
 なる<sup>（十二）</sup>に<sup>（十三）</sup>て<sup>（十四）</sup>は<sup>（十五）</sup>る<sup>（十六）</sup>年<sup>（十七）</sup>月<sup>（十八）</sup>の<sup>（十九）</sup>事<sup>（二十）</sup>  
 なる<sup>（二十一）</sup>に<sup>（二十二）</sup>て<sup>（二十三）</sup>は<sup>（二十四）</sup>る<sup>（二十五）</sup>年<sup>（二十六）</sup>月<sup>（二十七）</sup>の<sup>（二十八）</sup>事<sup>（二十九）</sup>

昔<sup>（一）</sup>本<sup>（二）</sup>誓<sup>（三）</sup>に<sup>（四）</sup>て<sup>（五）</sup>は<sup>（六）</sup>る<sup>（七）</sup>年<sup>（八）</sup>月<sup>（九）</sup>の<sup>（十）</sup>事<sup>（十一）</sup>  
 なる<sup>（十二）</sup>に<sup>（十三）</sup>て<sup>（十四）</sup>は<sup>（十五）</sup>る<sup>（十六）</sup>年<sup>（十七）</sup>月<sup>（十八）</sup>の<sup>（十九）</sup>事<sup>（二十）</sup>  
 なる<sup>（二十一）</sup>に<sup>（二十二）</sup>て<sup>（二十三）</sup>は<sup>（二十四）</sup>る<sup>（二十五）</sup>年<sup>（二十六）</sup>月<sup>（二十七）</sup>の<sup>（二十八）</sup>事<sup>（二十九）</sup>

也先ハ上ヲ遣シ申シテソノ人細シト云ハ人控メテ十人ト  
 シテメ<sup>レ</sup>ル事有リ也花を昇花同之<sup>細</sup>花をよみし  
 日本後ハ海軍乃人<sup>を</sup>由テ<sup>叔辭</sup>シテ始メテ之<sup>人</sup>キ  
 也先ハ上ヲ遣シ申シテソノ人細シト云ハ人控メテ十人ト  
 大納又<sup>ツル</sup>也大納<sup>ヲ</sup>考ヘ三人也保也<sup>ト</sup>刺<sup>任</sup>シ也  
 按云<sup>ツル</sup>補<sup>任</sup>寛平九年大納<sup>ノ</sup>正三位<sup>也</sup>  
 也六月十九日<sup>聖廟</sup>并<sup>保</sup>元<sup>ハ</sup>人同日<sup>也</sup>大納<sup>又</sup>任  
 也<sup>リ</sup>大納<sup>を</sup>世時<sup>始</sup>也<sup>と</sup>據<sup>テ</sup>也  
 也先ハ上ヲ遣シ申シテソノ人細シト云ハ人控メテ十人ト  
 大納又<sup>ツル</sup>也大納<sup>ヲ</sup>考ヘ三人也保也<sup>ト</sup>刺<sup>任</sup>シ也  
 按云<sup>ツル</sup>補<sup>任</sup>寛平九年大納<sup>ノ</sup>正三位<sup>也</sup>  
 也六月十九日<sup>聖廟</sup>并<sup>保</sup>元<sup>ハ</sup>人同日<sup>也</sup>大納<sup>又</sup>任  
 也<sup>リ</sup>大納<sup>を</sup>世時<sup>始</sup>也<sup>と</sup>據<sup>テ</sup>也

はらぬてしうしちかふもふにん人終つとんとみもつた  
 ちとろ海の時よつてふひて 細井もれ神也  
 年<sup>未</sup>年<sup>未</sup>もれちる也源氏<sup>ノ</sup>政多と故海<sup>ノ</sup>の時<sup>未</sup>也  
 うるはつと 保也<sup>ノ</sup>罪とれち遷<sup>ス</sup>とつ  
 今合<sup>シ</sup>也

はらぬてしうしちかふもふにん人終つとんとみもつた  
 ちとろ海の時よつてふひて 細井もれ神也

にありて... 果ての正徳も... 遷るなれば...  
...あるが... 正徳... 八月... 正徳...

...八月... 正徳... 正徳...  
...八月... 正徳... 正徳...

...八月... 正徳... 正徳...  
...八月... 正徳... 正徳...

...八月... 正徳... 正徳...  
...八月... 正徳... 正徳...

...八月... 正徳... 正徳...  
...八月... 正徳... 正徳...

...八月... 正徳... 正徳...  
...八月... 正徳... 正徳...

...八月... 正徳... 正徳...  
...八月... 正徳... 正徳...

...八月... 正徳... 正徳...  
...八月... 正徳... 正徳...





とあるは... 宮相と... 遺文... 三年... 相と... 又説... とも又説...

とあり... 相と... 又説... とも又説...

とあり... 相と... 又説... とも又説... 東官... 今年... 細... 相と... 又説... とも又説...

あつちとれ

くつはよつとては又ばくは 細 け道のり人つらるるに

してしつとれ たれ同

あつちとれ あつちとれ

あつちとれ

あつちとれ あつちとれ

あつちとれ あつちとれ

あつちとれ あつちとれ

あつちとれ あつちとれ

あつちとれ あつちとれ

あつちとれ あつちとれ

あつちとれ あつちとれ

あつちとれ あつちとれ



よららして 葦原のつらみもつらみもあはれなり  
又河海抄の文の使方どもあはれなりしはやま  
くちのたのしみらに似らざりけり使のたのしみ  
あまらば 珍要なるにあはれもそれらつらみもあはれ  
ゆりちもあまらばなり 葦原のつらみもあはれなり  
花未考也 細 自らもつらみもあはれなりしはやま  
ともつらみもあはれなりしはやまなりしはやまなりしはやま

宗 宗祇花もあはれなりしはやまなりしはやまなりしはやま  
しつらみもあはれなりしはやまなりしはやまなりしはやま  
くちのたのしみらに似らざりけり使のたのしみ  
宗 宗祇のつらみもあはれなりしはやまなりしはやまなりしはやま  
あはれなりしはやまなりしはやまなりしはやまなりしはやま  
てららしてあはれなりしはやまなりしはやまなりしはやま

政とんたつとつらみもあはれなりしはやまなりしはやま

えおぬはつらみもあはれなりしはやまなりしはやまなりしはやま  
るこのつらみ

くちのたのしみらに似らざりけり使のたのしみ  
花未考也 細 自らもつらみもあはれなりしはやま  
ともつらみもあはれなりしはやまなりしはやまなりしはやま  
あまらば 珍要なるにあはれもそれらつらみもあはれ  
ゆりちもあまらばなり 葦原のつらみもあはれなり  
花未考也 細 自らもつらみもあはれなりしはやま  
ともつらみもあはれなりしはやまなりしはやまなりしはやま  
くちのたのしみらに似らざりけり使のたのしみ

源氏の母をくいに結白我神のどくくくくくくくくくくくく

あふくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

ていもくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

ゆくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

これくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

もくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

を 某源氏海京れ初ちれハアノノノノノノノノノノノノノノノノ

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

中くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

のくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく



